

日本知的財産協会(JIPA)の知財研修・人材育成  
2005年11月  
日本知的財産協会

**. 過去のJIPA研修 = 知財実務(権利化)**

日本の同質的競争社会における特許という看板  
「まじめな優秀な実務者(とその管理者)」を育成  
・受講者数: 17000名 / 年間の実績

- 詳細: ・ 1960年代の技術導入とその改良  
・ 1970年代から自己技術開発  
・ 1960年代末から特許出願急増  
・ 訴訟しないでクロスライセンスと相互黙認  
どこの製品も似ていて、どこの会社もダントツ  
の利益は出せないが、日本全体は安くて製品を  
大量に (JAPAN as No.1)

**. 将来の「知財立国」のための企業内知財人材**

**知財リーダー  
知財戦略スタッフ  
知財専門実務者  
技術者**

- 詳細: 以下の3つの時代認識の基づき経営に対し、知財からしか言えない発信・提言を行い、経営を動かし知財経営実現を促すリーダーを。
- a . 1億人強の国内市場では自立困難なグローバル時代
  - b . 頭が生み出すものが最大の競争要素の時代(知識社会)
  - c . 専門家であり且つゼネラリストである知財のリーダーの時代

## ・経営を動かし、経営に資する今までにない知財人材の育成

### (1) 知財変革リーダー育成研修

非知識注入型による自己変革

知識創造経営の一橋大野中郁次郎教授にご協力を頂く。

(40才前後をターゲットに)

JIPA吉野会長のフォロー会でのコメント

「知財リーダーとは、経営にどう資するかを常に強く意識することが大切。」

斬新なプログラム

- ・野中教授の知識創造サイクル(SECIMODEL)の講演
- ・M.ポーターの競争戦略論
- ・JIPA幹部の経験談
- ・「自社の知財改革・経営改革の提言」
- ・上司・研修生・チューターによる三者面談

### (2) 知財戦略スタッフ研修

経営(財務、営業、人事、R & D etc)の基礎知識と知財戦略実務との融合

・基礎学習 + 互学互修 + ケーススタディー

戦略スタッフは参謀ではなくラインの中で知財リーダーと専門実務家とを結合(「ミドル・アップ・ダウン」野中教授)  
戦略スタッフから知財リーダーへの成長を狙う

## ・JIPAの「知財経営支援PJ」

(1) 経営学者の実例共同研究(武蔵大学の米山教授等)

(2) 知財部門のミッション拡大